2009（平成２１）年７月２３日　通巻２号

花みずきだより

発行所　株式会社　須田　www.ceremony-suda.com
〒533-0014　大阪市東淀川区豊新5-19-16　電話（06）6324-8622

花みずきだより

2009年 夏号

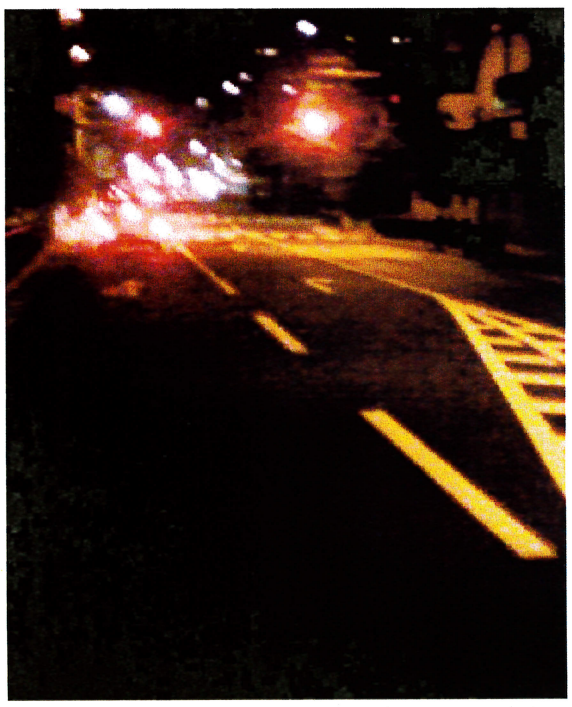
ご挨拶

映画「おくりびと」ご覧になったでしょうか。本木雅弘扮する納棺師が、お体を清拭し、旅立ちの衣装にお着せ替えし、お顔に死化粧を施す…。　大阪では、葬儀社の人間がお着せ替えをし、ご納棺させていただくのですが、私たちも、この映画を見て、あの所作の美しさに感動し、納棺の作法をもう一度勉強し直すべく、納棺師による納棺の儀を見学に行ったり、ＤＶＤを取り寄せたりして、日々、検討しております。又、お化粧の仕方もプロについて学び、生前のお姿に少しでも近づくことができればとも考えております。子供のころに見た白雪姫がりんごを食べて横たわっている絵のように、まるで、眠っているように故人様を送って差し上げることができたら…ご家族の方のお喜びになるお顔が、私たちの喜びなのですから。

在りし日のままで

～お手伝いをさせていただけるありがたさ～

数多くの葬儀に携わってきた中には、今でも心に残っている式がたくさんあります。その中の一つを紹介させていただきます。



病院からの要請で向かった先の病室にいらっしゃったのは、奥様を亡くされたご主人様でした。ご自宅へ向かう車の中で「今、○○を走っているんだよ。」「今、○○が見えてきたよ。」と一生懸命話しかけられる声が、運転席と後部を隔てるカーテン越しに聞こえてきます。　私にはご主人様の奥様に対するお気持ちが痛いほど伝わってまいりました。「こんなお気持ちの方の葬儀を担当させていただけたらなぁ」と思いつつ、いろいろとご主人様のお話を伺っておりました。いよいよ到着が迫ってきた時、思い切って、「ぜひ私に奥様の葬儀をさせていただけないですか」と、お願いをしてみました。ですが、ご主人様は会社の人たちとも相談しなければならず、自分の一存で決められないとのことで色よいご返事をいただくことはできませんでした。

ご自宅に到着し、お布団にご安置させていただき、ドライアイスをあてさせていただきながら、ご葬儀のことについてのご希望をお聞きしますと、ご自宅から送り出してやりたいとのことでした。　ご安置も無事に済み、奥様との思い出話を伺っておりますと、会社の方たちがお見えになりました。　私から葬儀のお話を切り出す間もなく、「社長、奥様の葬儀は会社で段取りをいたします。」とおっしゃいました。　会社の方にしてみれば、当然といえば当然なことだと思います。けれどもその時、「個人的に送ってやりたいので、この人にお任せしようと思う。」とご主人様がおっしゃってくださったのです。　その時のうれしさというのは、言葉では表現できないほどでしたが、反対にご期待に沿えるご葬儀ができるかと、少し心配になってきました。

最愛の人にしてあげたいこと

ご主人様の希望をすべてかなえさせていただくため、事細かに打ち合わせを行いました。

翌日、式場の設営も終わり、ご納棺のために奥様が寝ていらっしゃるお部屋に入りますと、お顔の横のドライアイスがはずされており、きれいにお化粧が施されていました。自然なお姿でお休みになっているようにお柩に入れてほしいとの事でしたので、一番お好きだったドレスをお着せし、綿花飾り、ドライアイス等は一切使わずに、納棺させていただきました。

葬儀は、お二人のエピソードなどのナレーションをいれたり、故人様のお好きだった曲を流したりして、すすめさせていただき無事に終わることができました。ご自宅から、失礼させていただくため、喪主様に挨拶に伺うと、「１００％満足だった」との言葉を頂戴し、葬儀に携わるものとしては、最高に幸せに思いました。喪主様とのコミニュケーションが充分に取れたこと、会社の方々の協力があったこと（受付、供花他）、ご近所の皆様の理解が得られたこと(駐車場、テント他)、など、たくさんの方々のご協力があって初めてできたことだと感謝しております。　このお式を担当させていただいたおかげで、今まで自信をもって葬儀に取り組んでこれたのだなと今更ながらに実感している次第です。

岸　喜八郎

花みずき会館の重鎮。豊富な経験と知識に裏打ちされた葬儀は若手にとってよいお手本となっています。

2009（平成２１）年７月２３日　通巻２号

花みずきだより

発行所　株式会社　須田　www.ceremony-suda.com
〒533-0014　大阪市東淀川区豊新5-19-16　電話（06）6324-8622

満員御礼

去る７月２０日、花みずき会館にて第２回フリーマーケットを開催致しました。前夜から降り続いた雨が止まず、今日のお客様の出足にちょっと不安な思いを抱きつつ…

ところが、オープンと同時に雨もあがり、１時のビンゴゲームの時には来場者数が最高潮を迎えました。

何はともあれ、無事開催できたのも地域の皆様のおかげです。たくさんのご来場を頂き、まことにありがとうございました。

フリマの次回開催は…

9月19日

秋の大型連休の初日

スタッフ紹介

入社3年目のエース

私が小学生の時、祖父が亡くなりました。帰宅すると家の縁側は開け放たれ、その地区での班の方々や親戚の皆が集まっており、お祭りのように見えました。気分が浮かれていたのを覚えています。　その日はよく遊ぶ友人と約束があり出掛けるつもりでしたが、父に凄い剣幕で諌められました。　いつも温厚な父ですが、路頭に迷えと言わんばかりの高額な葬儀費用と親族間での葬儀方針でもめていることへの苛立ちが、私の身に怒りとして降り掛かったのでしょう。　母は白い割烹着姿の御婦人となにやら忙しそうで、小さな弟と妹の面倒は、長男である私がつとめなければなりませんでした。　場が緊張していることは幼稚な私でも感じられたため、弟妹をなだめようと必死です。

祖父は寝たきりの人でした。薄暗い廊下を通して離れの部屋に居り、常々近寄り難かったものです。それでも日常で厭な事があれば、拠り所を探して向かいました。お互いに舌足らずで会話が弾むわけではないのですが、いつも笑顔で迎えてくれる彼の心地好さになつきました。　最後の対面が棺に納められた姿です。普段と何ら変わりない姿に、大勢が仰々しく揃って何を思うことがあろうかと念も無く居りました。遺骨が壷へ集められ薄暗い間に在る仏壇に小さく祀られる様子を眺めていると、姿形と場所が代わるための祭りだったのだと判りました。

しかし、それは祖父と私の繋がりだけが帰結するものでしかなく、各人にはそれぞれの繋がりがあり、それぞれに至る想いがあるのだということまで理解が及びませんでした。

結びは強固に絡まっており、丁寧に解かなければなりません。第三者が徒に与し、無駄に絡まるような事になれば、彼岸へと道連れに遭うでしょう。無理に切ってしまえば綻びになり収まりが悪く、長年引き摺る事になるのです。本人が一番よく解き方を心得ているのです。その時間と環境を調えて差し上げる筈です。その一端が葬儀社に有り私の務めなのだと儚い理屈を捏ね続ける私は能登出身の北野秀和と申します。

フリマ担当として奮戦中の北野

《お盆に関するQ&A》

なぜお盆と呼ぶのですか？

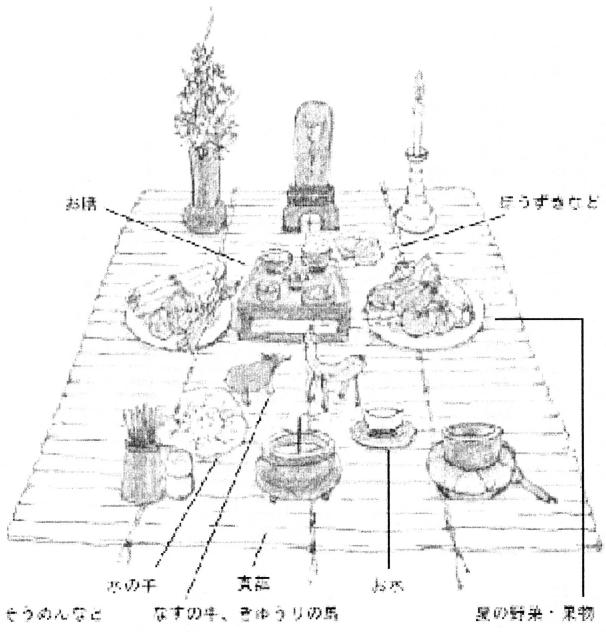
A お盆の正式名称は［盂蘭盆会・うらぼんえ］と言います。盂蘭盆会とはインドのサンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊り）を漢字で音写したもので、転じて「逆さまに釣り下げられるような苦しみにあっている人を救う法要」という意味です。

どんな由来があるのですか？

A お盆の行事はお釈迦さまの弟子の一人目連尊者（もくれんそんじゃ）が母を救う話に由来しています。　目連尊者は、ある時神通力によって亡き母が餓鬼道に落ち逆さ吊りにされて苦しんでいることを知ります。　そこで、どうしたら母親を救えるのかお釈迦様に相談したところ、「夏の修行が終った7月15日に僧侶を招き、多くの供物をささげて供養すれば母は救われるであろう。」とお釈迦様は言われました。　目連尊者がお釈迦様の教えのままにしたところ、その功徳によって母親は極楽往生をとげます。それ以来（旧暦）7月15日は、父母や先祖に報恩感謝をささげ、供養をつむ重要な日となりました。

お迎えの仕方を教えてください

A 精霊棚は、台の上に真菰（まこも）で編んだゴザを敷いて作ります。棚の奥中央に、お位牌を安置します。位牌の前には、なすやきゅうりで作った牛や馬を供えます。これは先祖の霊が「きゅうりの馬」に乗って一刻も早くこの世に帰り、「なすの牛」に乗ってゆっくりあの世に戻って行くようにとの願いを込めたものといわれています。そのほか、香・花・灯明・浄水・盛物・果物・野菜、それに、そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などを供えます。また、お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばとか軒先に新盆提灯を飾るものとされています。　盆棚を設けるスペースがない場合は、仏壇で精霊棚を兼ねます。仏壇の上部にホウズキを飾り、手前にマコモのゴザを敷き供物類を供えます。または、仏壇の前に机を置いて、むしろを敷き、野菜やくだもの、花、団子などを供える程度でもよろしいかと思います。



編集後記

再登場、仲里です。前回に続き作成に関わらせて頂きました。読んで頂いた皆様方が、少しでも楽しんで頂けたなら幸いです。

創刊号で自己紹介いたしました川波です。実はもうすぐ子供が生まれます。　たくさんの方のおかげでここまでくることができました。子が誇れる葬儀屋でありたいと思います。